

# 「女性化学者奨励賞」新設について ～女性化学者の活躍に期待する～

## 本賞の概要と新設経緯

“女性化学者奨励賞”新設が、第608回理事会（平成24年2月7日）で承認された。はじめに、本賞の概要を示す。[新設目的] 化学に携わる若い女性の憧れとなるロールモデルを顕彰し示すことにより、女性会員を励まし、女性会員数の増加と化学の活性化に資する。

[対象者] 学術研究に傑出した業績と貢献がある者で、国内外の研究活動・交流を通じて我が国の女性化学者の地位向上に寄与し、若手研究者の目標となる本会女性正会員に授与される。受賞年の4月1日現在満40歳未満の者。年2名以内。受賞者はその年の春季年会において受賞講演を行う。

[募集方法] 日本化学会の他の賞と併せて公募、選考し、春季年会で表彰する。

ここで、新設経緯を簡単に記す。男女共同参画推進委員会は平成15年の第561回理事会（野依良治会長）に下記のポジティブアクションを提案し、承認されている。

1. 理事会、支部、部会、委員会等における女性役員比率が2010年までに20%になるように、女性の登用に努める。
2. 日本化学会が主催する学会、講演会等において、女性化学者を含め、ロールモデルとして示すこと。
3. 女性化学者に対する奨励賞の創設。

この第3項が、女性化学者奨励賞として、9年越しに実現したのである。

日本化学会は、米国化学会、英国化学会に次ぐ世界3位の会員数を擁しているが、正会員に占める女性会員の割合は7.6%である。少子化が進む中で、日本が科学技術立国を達成するためには、女性の持つ多様な能力を活かすことが重要である。本賞が日本化学会の女性会員の増加をもたらす、化学分野の一層の発展につながることを願ってやまない。

## 女性科学者の現状と課題

日本の女性研究者比率は、経済協力開発機構（OECD）加盟32カ国中最下位の13.6%である。主要国の同比率を見ると英国36.7%、米国34.3%、フランス27.4%、ドイツ23.2%で、韓国14.9%である。女性研究者が少ない背景には、①出産・育児などと研究活動の両立が困難、②科学・技術は男性のものという固定観念・社会通念、③研究者の採用、昇進、評価のあり方、などがある。一方、女性が科学技術分野で活躍できる環境整備は、「男女共同参画基本法（第2次）」（H17.12）と「第3期科学技術基本計画」（H18.3）によって国策として加速された。さらに、内閣府男女共同参画局（H20.4）の「女性の参画加速プログラム」による「2020年までに指導的立場に女性が占める割合が、少なくとも30%になるよう期待する」という女性チャレンジ支援が開始された。特に、活躍が期待されながら女性の参画が進んでいない女性医師、女性研究者、女性公務

員が加速対象である。女性研究者の活躍で多様性に富んだ活力ある社会が構築されると期待されている。

なお、女性化学者の活躍がめざましい米国化学会（ACS）には女性化学者を励ます賞がたくさんある。優れた女性化学者を顕彰するGarvan-Olin Medalは1936年に創設され、1993年には、女性化学者の育成に功績のあった人（男、女）を顕彰するACS Award Encouraging Women into Careers in the Chemical Scienceが新たに創設されたことを付記しておく。

## 女性化学者への期待

昨年は世界化学年であり、「化学の社会貢献」が再認識された。その一方、3月の大震災と原発事故後、これまで以上に我が国の科学技術への信が国内外から問われている。女性化学者奨励賞は、希望とともに前進する、今後の飛躍を期待される若手女性化学研究者の「見える化」にある。夢をもって行動し、実績を示し周囲をも元気にする若手女性研究者に敬意を払い、未踏分野に挑戦するその姿を見せ、これから化学に向かう学生たち、化学の入り口に立つ若手を鼓舞する取り組みである。本賞が、女性化学者たちの英知増強、若手の躍進、後進の育成強化などに発展し、岩澤前会長が発信されている「化学が社会をリードする」の一道標になることを願っている。

〔男女共同参画推進委員会 佐々木政子・相馬芳枝〕

© 2012 The Chemical Society of Japan